

接種を望む人がスムーズに接種できる体制づくり



スピード感のある対応

小柳 この緊急事態に全庁をあげて取り組む必要がある。他の自治体の動きを見るのではなく、前例に囚われず取り組むことが必要ではないか？



市長 機動的かつ柔軟にやれることはなんでも取り組む決意だ。

ワクチン休暇について

小柳 若い世代では発熱、頭痛などの副反応発生の頻度が高齢者の5倍程度あることが厚生労働省から公表された。ワクチン接種翌日は休暇とするなど社会環境を構築することが重要ではないか？

市長 休暇をとってワクチンを接種するというのは大変重要なことだ。新潟市として（民間企業等への）発信を検討していきたい。

ワクチン休暇相談会の詳細はこちら



その後中小企業への相談会が企画されました。

数字に基づいた施策

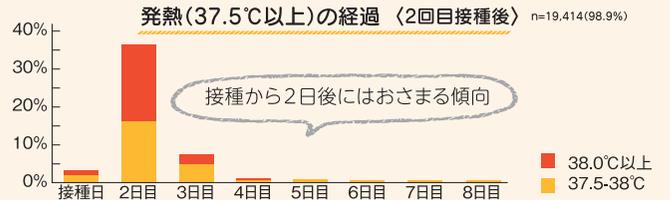
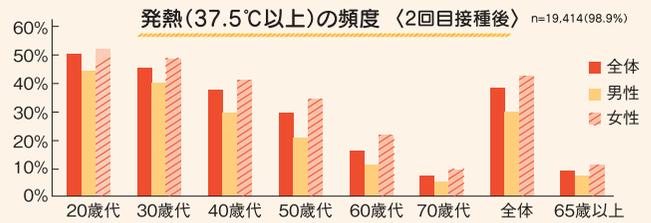
区別の接種状況

小柳 区別の接種状況はどうか？中央区の大規模接種会場はアクセスの問題から予約枠が埋まっている。区別の接種状況に基づき集団接種会場を設置しなければ、高齢者の接種は進まないのでは？

保健衛生部長 どの区も1回目の接種率は30%程度だが、区により差がある。今後は区の状況を見ながら、集団接種会場を設置したい。



若者の副反応データ



第60回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会提出資料より

市民の意向調査

小柳 若い世代の接種では副反応を考慮し休日に接種が集中することが想定される。接種の意向、希望日、時間帯を調査することで、市民のニーズにあった会場設定が可能だ。事前に意向調査が必要ではないか？

保健衛生部長 現時点ではサンプル調査は考えていないが、スムーズな接種につながるものであれば、全ての可能性を含めて検討していく。
※調査したところ、神戸市で意向調査をもとに会場、時間帯の設定を実施



ワクチン接種しない選択肢の尊重

小柳 長期的なリスクへの不安や体質などを理由にワクチンを接種しない選択肢もある。接種が任意である以上、差別は許されず配慮が必要だと考えるがどうか？

保健衛生部長 接種をしない選択肢も尊重されなければならない。差別や偏見などは許されない。今後、様々な機会を捉え、それぞれの年代や職業に応じた啓発を行っていく。

集団接種のスケジュール

接種対象者	接種券	予約開始	市内対象者数	
65歳以上 	75歳以上	接種中	11.7万人	
	65歳～74歳の基礎疾患のある高齢者		12.5万人	
	65歳～74歳の基礎疾患のない高齢者			
64歳以下 	12歳～64歳の基礎疾患のある人	接種券が届き次第 ※大規模接種会場に空きがある場合に優先的に接種中 ワクチンの供給状況により決定次第お知らせ	4.7万人	
	保育園・ひまわりクラブ等の職員 幼稚園・小中高等学校の教職員 60～64歳の人		7月9日までに発送	42.6万人
	12～59歳			

※7月6日時点の情報をもとに作成しています ※個別接種は各医療機関にお問い合わせください